

# 情報活用能力チェックリスト2022

第1カテゴリ	第2カテゴリ	第3カテゴリ	ステップ0		ステップ1	
			小学校低学年		小学校中学年	
知識・技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	情報技術に関する技能	1	キーボードでパスワードを入力してログインすることができる。	1	キーボードを使って、ローマ字入力で文章を打つことができる。(鉛筆で書くくらいのスピードで打てる/1分間40字以上)
			2	カメラアプリで写真や動画を撮って見ることができる。	2	カメラアプリで写真や動画を撮ったり、QRコードを読み取ったりすることができる。
			3	ミライシードのオクリンクでカードに手書きで文字を書いたり色をつけたりすることができる。	3	スプレッドシートを使って、表を作ることができる。
		情報と情報技術の特性の理解 記号の組み合わせ方の理解	4	GIGA端末やゲーム機等がインターネットにつながることを知っている。	4	身の回りのものでコンピュータやインターネットが使われているものがあることを知っている。
			5	まず、次に、と順番に説明することができる。	5	スクラッチやビジュアルプログラミング言語などのプログラミングアプリを使って、簡単なプログラムを作ることができる。
	問題解決・探究における情報活用方法の理解	情報収集、整理、分析、表現、発信の理解	6	知りたいことを本で調べることができる。	6	知りたいことを、インターネットで調べることができる。
			7	GIGA端末で先生から課題を受け取ったり、作ったものを提出したりすることができる。	7	写真を使ってオクリンクやスライドなどで発表用のスライドを作ることができる。
		情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	8	たくさんの友達の意見を知らると、もっとよく考えられることを知っている。	8	同じところや違うところを比べると、たくさんの情報を整理できることを知っている。
	情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	情報技術の役割・影響の理解	9	インターネットにはよくない情報もあるので、大人の人と一緒に使うことを知っている。	9	インターネットには、正しくない情報や危険な情報があり、見つけたときは大人に相談することを知っている。
			10	友達が書いたものや作ったものは大切に、勝手に使ったり消したりしてはいけないことを知っている。	10	新聞・テレビなどのニュースやインターネットの情報は、伝える側の思いや考えによって違うことを知っている。
		情報モラル・情報セキュリティの理解	11	人の写真を勝手にとってはいけないことを知っている。	11	自分の文章の中に他の人の言葉を使う時(引用する時)は、その部分に「」をつけて書くことを知っている。
			12	IDやパスワードは大切であることを知っている。	12	人の写真を撮るときや作品を使うときは、その人の許可が必要だと知っている。
			13		13	悪いことを書き込むと、それは残ったり広がったりする危険があることを知っている。
			14		14	個人情報やID、パスワードが大切であることを知っている。
思考力・判断力・表現力等	問題解決・探究における情報活用方法の理解 探究における情報を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	13	人の話をよく聞いて、質問や感想を言うことができる。	15	話を聞きながら、大事だと思うことをメモすることができる。	
		14	似ているところと違うものを比べて仲間わけをすることができる。	16	同じところや違うところを比べて、問題を見つけることができる。	
				17	同じ種類や仲間に分け、図や表に整理することができる。	
				18	表やグラフを読み取ったり調べたことを整理したりすることができる。	
				19	集めた情報から必要なものを選んでまとめることができる。	
		15	声の大きさや話す速さに気をつけて話すことができる。	20	相手に伝わるように、声の大きさに気をつけたり、間を取ったりしながら話すことができる。	
		16	伝えたいことを順序に気をつけて話すことができる。	21	自分の考えを伝えるときには、理由や例を挙げて話すことができる。	
17	見せたいものをテレビなどに大きく映して説明することができる。	22	調べたことを、写真や図を組み合わせるスライドにまとめて発表することができる。			
学びに向かう力・人間性等	問題解決・探究における情報活用方法の態度	18	知りたいことはなるべく自分の力で調べるようにしている。	23	課題に合わせてインタビューをしたりアンケートを取ったりして、いろいろな方法で情報を探そうにしている。	
			試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	24	調べたりまとめたりする活動を振り返り、他の学習に生かそうとしている。	
	情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	19	自分の発表の仕方の良いところや気をつけたいことを振り返って、もっとよくなるように考えている。	25	自分や他の人の個人情報(名前・電話番号・住所・ID・パスワード等)を知らない人に教えないようにしている。	
		20	自分や友達の個人情報(名前・電話番号・住所・ID・パスワード等)を知らない人に教えないようにしている。	26	メッセージや画像・動画を送るときは、誰が見るか、その内容が適切かどうかなど考えるようにしている。	
	情報社会に参画しようとする態度	21	GIGA端末やゲーム機は使いすぎないよう、時々目を休ませながら使うようにしている。	27	GIGA端末やゲーム機などを使いすぎないよう、約束を守って使っている。	
		22	GIGA端末は約束を守って大切に使うようにしている。	28	調べてまとめたり、発表したりする学習では、GIGA端末を活用するようにしている。	

GIGAスクール構想に伴い、文部科学省「情報活用能力の体系表例」（令和元年版）を基に、2017年度版を改訂し、教師と児童生徒が意識できるようなチェックリスト2022年度版です。令和5年度まで段階的に情報活用能力を身に付けていくようにします。

ステップ2 小学校高学年		ステップ3 中学校	
1	キーボードを使って、ローマ字入力で正しく文章を打つことができる。（鉛筆で書くより速く打てる／1分間60字以上）	1	キーボードを使って、ローマ字入力で正しく文章を打つことができる。（日本語とアルファベットが混ざった文章も鉛筆で書くスピードより速く打てる／1分間80字以上）
2	カメラアプリで写真や動画を撮って、それをスライド等に貼ることができる。	2	カメラアプリで撮った写真をトリミングするなどして加工し、スライドやドキュメント等に貼ることができる。
3	スプレッドシートを使って表やグラフを作ることができる。	3	過去のデータや資料をすぐに活用することを意識してデータを整理して保存している。
4	コンピュータやインターネットの利用によって、社会や生活が変化していることを知っている。	4	クラウドをはじめ、情報通信ネットワークの利用によって社会が便利になっていることを、具体的な例を挙げて説明することができる。
5	課題を解決するための手順をフローチャート等図示して、簡単なプログラムをつくることができる。	5	自分の意図する動きを実現する命令を考えてプログラミングをすることができる。
6	知りたいことを、キーワードの組み合わせを考えながらインターネットで検索することができる。	6	知りたいことを、本やインターネットなど複数の方法で調べ、情報の正確性や信憑性を確認しながら的確な情報を拾取選択することができる。
7	写真や図や文章を組み合わせたスライドを作ることができる。	7	目的に応じて、友達とドキュメントやスプレッドシート等を共有して協働して学習している。
8	解決の方法を考えると、変える条件と変えない条件を整理することを知っている。	8	他者の考えと比較しながら目的や意図に応じて情報を整理することで、根拠に基づいた説明ができることを知っている。
9	悪意がある情報や不適切・不正なサイトやファイルを見つけたときは見ないようにし、大人に相談することを知っている。	9	悪意がある情報や、不適切・不正なサイトやファイルを見つけたときは見ないようにし、大人に相談することを知っている。
10	インターネットや新聞、テレビ等情報を伝えるメディアの特徴や、視点を変えることで色々な見方ができることを知っている。	10	インターネットや新聞、テレビなどのメディアからの情報には発信者の意図が含まれているため、その妥当性や信ぴょう性について批判的に考え、内容を読み取るようにしている。
11	自分の文章の中に他の人の言葉や文を引用するときは、その部分に「」を付けてそのまま書くことを知っている。	11	自分の文章の中で、引用する本や文、語句などを「」でくくってそのまま抜き出して書き、参考にした資料を参考文献として必要事項を明記したり、入力したりしている。
12	人の写真を撮るときや作品を使うときは、その人の許可が必要だと知っている。	12	SNS等に人の写真や文章等をあげる（アップロードする）時には、肖像権・著作権を尊重し、必要に応じて相手から許諾を得るようにしている。
13	発信した情報は、インターネット上に残ったり広がったりする危険性があることを知っている。	13	発信した情報は、インターネット上に残ったり広がったりする危険性があることを知っている。
14	個人情報やID、パスワードは大切であり、自分で安全に管理する必要があることを知っている。	14	個人情報やID、パスワードが大切であることを理解し、パスワードは他人がわからないものに定期的に変更し、安全に管理している。
15	話し手の言いたいことを考えて聞き、大事だと思うことをメモを取ることが得意である。	15	話し手の言いたいことを読み取るために、必要に応じて質問したり、文字や写真、音声や動画など場面に応じて記録したりすることができる。
16	見いだした問題に対して、解決の方法を考えることができる。	16	見いだした問題を解決するために、多面的に調べ、目的や意図に応じて情報を整理し、必要なものを選んでまとめることができる。
17	集めた情報を読み取り、表やグラフ「考えるための技法（思考ツール等）」に整理して表すことができる。	17	実験や資料から読み取った数値をもとに、表やグラフ、「考えるための技法（思考ツール等）」に整理して新たな意味を見いだすことができる。
18	表やグラフから、必要な情報や数値を正確に読み取ることができる。	18	表やグラフから変化や傾向を読み取り、分かりやすく説明することができる。
19	知りたいことを図書資料や統計資料など複数の情報を集めて、整理・分析することができる。	19	複数のホームページから情報源の信頼性を判断し、情報を適切に活用することができる。
20	集めた情報を比較したり必要なものを選んだりしてまとめることができる。	20	グループで話し合うときに、発言者の意図や内容を理解して話を聞き、関連させながら自分の意見を述べるることができる。
21	自分の考えが伝わるように、調べた情報を他の情報と比較して、他の人の意見を工夫して取り入れることができる。	21	説明するときにGIGA端末を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
22	自分の考えが伝わるようなアプリを選び、資料を活用するなど、表現を工夫することができる。	22	情報を統合して論理建てで考え、目的や意図に応じて新聞やリーフレット、スライド等にまとめて伝えることができる。
23	課題に合わせていろいろな方法で情報を探したり調べたりするなかで、それを比較して活用しようとしている。	23	複数の情報を比較して、根拠を挙げて自分なりの考えを提案するようにしている。
24	伝えたいことが受け手にきちんと伝わっているか、自分の発表を振り返り、次の学習に生かそうとしている。	24	伝えたいことが受け手の状況に応じてきちんと伝わっているか自分の発表の仕方を振り返り、自分の発表をよりよいものに改善しようとしている。
25	個人情報をネットワーク上に書き込まないようにしたり、パスワードを他人にわからないようなものにしたっている。	25	個人情報をネットワーク上に書き込まないようにしたり、パスワードを他人にわからないようなものにしたっている、安全に利用するために情報セキュリティを意識した行動をしている。
26	SNSやメールなどでメッセージや画像・動画を送るときには、誰が見るか、その内容が適切かどうかなど、よく考えるようにしている。	26	SNSやメールなどでメッセージや画像・動画を送るときには、誰が見るか、その内容が適切かどうかなど考え、情報社会における自分の責任や義務を踏まえ行動しようとしている。
27	GIGA端末やゲーム機、スマートフォン等を使いすぎないよう、時間や場所、姿勢に気をつけて使っている。	27	GIGA端末やゲーム機、スマートフォン等の使いすぎによる健康への影響を考えて、時間や場所、姿勢に気をつけて使うようにしている。
28	情報を調べて分類し、まとめたり発表したりする学習では、必要に応じて自分からGIGA端末を活用するようにしている。	28	必要に応じて自分からGIGA端末を適切に活用し、学習するようにしている。